

正書法の改正と初級ドイツ語の授業

春日 正 男

1

ドイツ語のつづりについての改正が1998年8月1日より実施されることになりました。

正しいつづりの規則を正書法 (die Rechtschreibung) といいますが、それが約1世紀ぶりに改正されることになったのです。従来の正書法は1901年にベルリンの正書法会議で決められたものでした。この正書法は1902年以来ドイツ、オーストリアそしてスイスで適用されて来ました。しかし時代の流れと共に新しい正書法の統一の要請は次第に大きくなり、1994年11月にウィーンで開かれた会議には、ドイツ語を国や地域の公用語としている8カ国、つまりドイツ、オーストリア、リヒテンシュタイン、スイス、イタリア、ベルギー、ルーマニア、ハンガリーの政府代表が参加しました。そしてついに1996年6月1日ウィーンで、ドイツ、オーストリア、スイス及びリヒテンシュタインの代表によって、新しい正書法の最終案が正式に調印されたのです。ドイツの学校では、すでにこの新しい正書法にしたがって授業が行われています。ただし、2005年7月31日までは従来の正書法との併用が認められた猶予期間となっています。

外国語として初めてドイツ語を学ぶ日本の学生にとっては、従来の規則で書かれた文章を読むことがほとんどであると思われます。したがって、従来の正書法で書かれた辞書や教科書だけで学んでいたとしても、さしたる影響はないといえるかもしれません。しかしながら、公の文書は原則として1998年8月1日からは、すべて新しい正書法で書かれていることになるでしょう。そのような状況になると——猶予期間内では従来の正書法で書かれた文章も出てくる可能性はありますが——新しい正書法を知らないのでは、せっかく意気込みを持ってドイツ語を学んだとしても、新しく書かれた文章に違和感を抱くということになりかねません。新しい正書法を無視しては、これからのドイツ語教育にとってよいことはまずないといっても決して過言ではないと思われます。

そのような視点に立って、ここでは新しい正書法の概要と、これからの日本の大学における初級ドイツ語の授業について少々述べてみたいと思います。

2

まず初めに新しい正書法で改正された主な点を挙げると以下の6点になります。

- ①音とつづりの関係の緊密化
- ②離して書くか、一語で書くか
- ③大文字書きか、小文字書きか
- ④コンマ使用の規則の簡略化
- ⑤ハイフン使用の柔軟化
- ⑥文綴の簡略化

これらの中で初級ドイツ語教育で重要なのは①、②、③、④とと思われますので、それぞれの改正点を従来の正書法にしたがった書き方と新しい正書法にしたがった書き方とを比較しながら簡単に説明しま

しょう。原則として左側が従来の正書法にしたがったつづり、右側が新しい正書法にしたがったつづりです。左右に分けて書けない場合は上段が従来の、下段が新しい正書法にしたがったつづりと致します。

① 音とつづりの関係

a) 外来語でドイツ語に違和感のない語はドイツ語のつづりにする。(ただし、従来のスペルも併用されます)

例)	旧	Delphin	新	Delfin	Ⓜ	イルカ
		Exposé		Exposee	Ⓜ	報告書
		Saxophon		Saxofon	Ⓜ	サクソフォン
		Katarrh		Katarr	Ⓜ	カタル

b) ss と ß の区別。短母音の後が ss, 長母音と複母音の後は ß になります。

例)	旧	Fluß	新	Fluss	Ⓜ	河川
		Kuß		Kuss	Ⓜ	キス
		bißchen		bisschen	Ⓜ	少し

ss と ß の区別はすべてのつづりに関して新しくなります。essen と müssen の現在人称変化で比較してみましょう。

	essen		müssen				
旧	ich esse	新	ich esse	旧	ich muß	新	ich muss
	du ißt		du isst		du mußst		du musst
	er ißt		er isst		er muß		er muss
	wir essen		wir essen		wir müssen		wir müssen
	ihr eßt		ihr esst		ihr müßt		ihr müsst
	sie essen		sie essen		sie müssen		sie müssen

c) 合成語の子音が3つ重なる場合ははぶかない。

例)	旧	Ballettänzerin	新	Balletttänzerin	Ⓜ	バレリーナ (Ballett + Tänzerin)
		Bettuch		Betttuch	Ⓜ	シーツ (Bett + Tuch)
		Schiffahrt		Schiffahrt	Ⓜ	航海 (Schiff + Fahrt)
		hellicht		hellicht	Ⓜ	明るい (hell + licht)
		stillgen		stillgen	Ⓜ	停止する (still + legen)

複合名詞の場合はハイフンでつないで書いてもよい。

Ballett-Tänzerin	Schiff-Fahrt	Bett-Tuch
------------------	--------------	-----------

d) 語源の原則にしたがって e を ä とする。

例)	旧	behende	新	behände	Ⓜ	敏捷な (← Hand)
		belemmert		belämmert	Ⓜ	困惑した (← Lamm)
		Stengel		Stängel	Ⓜ	茎 (← Stange)

② 離して書くか、一語で書くか

a) 名詞を前つづりに持つ分離動詞は離して書きます。

例)	旧	achtgeben	新	Acht geben	注意を払う
----	---	-----------	---	------------	-------

eislaufen	Eis laufen	アイススケートをする
haltmachen	Halt machen	立ち止まる
kopfstehen	Kopf stehen	狼狽している
radfahren	Rad fahren	自転車に乗る

b) 動詞や分詞を前つづりに持つ分離動詞は離して書きます。

例) 旧 kennenlernen	新 kennen lernen	知り合いになる
spazierengehen	spazieren gehen	散歩する
stehenbleiben	stehen bleiben	立ち止まる
gefangennehmen	gefangen nehmen	とりこにする
verlorengehen	verloren gehen	なくなる

c) -einander, -wärts, -ig, -isch, -lich の前つづりを持つ分離動詞は離して書きます。

例) 旧 auseinandergehen	新 auseinander gehen	別れる
vorwärtskommen	vorwärts kommen	出世する
müßiggehen	müßig gehen	のらくらしている
heimlichtun	heimlich tun	思わせぶりをする

③ 大文字書きか、小文字書きか

a) gestern, heute, morgen の後に時刻をあらわす語が来る場合は大文字書きとなります。

例) 旧 heute abend	新 heute Abend	今日の晩
morgen nachmittag	morgen Nachmittag	明日の午後
gestern morgen	gestern Morgen	昨日の朝

b) 形容詞+動詞の形容詞を名詞とします。

例) 旧 angst machen	新 Angst machen	不安にする
Es tut mir leid.	Es tut mir Leid.	残念です。

c) 前置詞+言語の場合は言語を大文字にします。

例) 旧 auf deutsch	新 auf Deutsch	ドイツ語で
------------------	---------------	-------

④ コンマ使用の規則の簡略化

a) und, oder で結んだ文の場合は一般にコンマははいらなくなります。

例) 旧 Ich habe sie oft besucht, und wir saßen bis spät in die Nacht zusammen.	新 Ich habe sie oft besucht und wir saßen bis spät in die Nacht zusammen.
私は彼女をしばしば訪ねて、私たちは夜遅くまで一緒に座っていました。	

b) zu 不定詞句や分詞構文の前後のコンマは、意味が容易に分かる場合ははぶいてもよくなりました。

例) 旧 Sein Wunsch, eine Familie zu gründen, war groß.	新 Sein Wunsch eine Familie zu gründen war groß.
結婚しようという彼の望みは大きかった。	
旧 Sie hatte ein Taxi genommen, um nicht zu spät zu kommen.	

新 Sie hatte ein Taxi genommen um nicht zu spät zu kommen.
彼女は遅刻しないためにタクシーに乗りました。

3

以上新しい正書法の改正の主な点を挙げてみましたが、筆者が20数年間の初級ドイツ語の授業を経て来た経験から考えますと、初めてドイツ語を学ぶ学生たちにとって本当に気を配らなければならないのは、実はそんなには多くはないというのが正直な感想です。では、新しい正書法をまったく無視してもよいのかというと、これはかなり無理があるというか、ほとんど無謀であると思われる。最低限知っておかなければならないことは確実に身につけておかなければならないと思われま

す。その最低限知っておかなければならないことというのは、私見ではありますが上記の①-b)のssとßの区別、②-a), b)の分離動詞の問題、③-a) heute 等の後の時刻を表す語の大文字化、及び④-a), b)のコンマ使用の簡略化の4点であると思われま

す。新しい正書法で改正された規則の中で重要と思われる4点を、前章より具体的に文章として見られるところは文章として見ていきたいと思ひます。以下に記す正書法の比較は、前章と同様に、原則として従来の正書法にしたがった書き方を左側に、新しい正書法にしたがった書き方を右側に記すことにします。左右に並列して記述できない場合は上段が従来の正書法、下段が新しい正書法にしたがった書き方とします。

① -b) ss と ß の区別について

従来の正書法では、単母音と母音に挟まれている場合のみssのつづりを用いることができたが、新しい正書法では単母音の後がss、長母音と複母音の後はßに統一されました。

筆者は大学に入ってドイツ語に初めて触れたとき、このssとßの書き表し方の区別にかかなり苦労しました。個人的な理解能力の低さの問題かも知れませんが、本来ssもßも同じつづりであると説明されても、現に目の前にある文字は歴然と異なっているわけでありますから容易に納得できなかったのです。しかも英文タイプライターではßをssと打って良いなどと説明されると、混乱はますます大きくなったものでした。「単母音と母音に挟まれている場合のみ」という条件を覚えるまでに結構かかったことを今でもよく覚えています。しかし、新しい正書法では「単母音の後はss」「長母音のと複母音の後はß」となりました。ssないしßの後の母音の有無は関係なくなったわけです。このことは初学者にとっては、かなり大きな意味を持っているといえるでしょう。何故なら、ssの前が単母音でありさえすればßに変化するということはなくなるのですから。例えば、学生たちが時々間違えるküssenの現在人称変化を見てみましょう。学生たちが間違える場合の多くは、du küsst, er küsstとしてしまうことです。これは新しい正書法では間違いではなくなります。

küssen

旧	ich küsse	新	ich küsse
	du küßt		du küsst
	er küßt		er küsst
	wir küssen		wir küssen
	ihr küßt		ihr küsst
	sie küssen		sie küssen

du, er, ihr が主語となるときには、従来はssをßに変えなければならなかったのですが、新しい正書法ではその必要はなくなり、初めてドイツ語を学ぶ学生にとってはるかに分かりやすくなったのでは

ないでしょうか。これと同じような例には、他に fassen, hassen 等があります。もちろん、前章で挙げた essen もこの例のひとつです。

もうひとつ Fluß と Fuß (共に従来の正書法) を例に挙げてみましょう。

旧 Fluß	新 Fluss
Fuß	Fuß

Fluß の発音記号は [flus], 一方 Fuß は [fuːs] です。共に ß の後に母音がありませんので、従来の正書法では ß で書かなければなりませんでした。ß の前にある母音の u が単母音なのか長母音なのかは、単語の発音を一つひとつ覚えなければならなかったのです。しかし新しい正書法では「単母音の後は ss, 長母音と複母音の後は ß」なのですから、Fluss と Fuß となります。こうなれば発音も従来よりもはるかに分かりやすくなったといえると思います。

同様に従属の接続詞の daß も、これからは dass と書かれるようになります。この表記には筆者も正直に言って当初はかなり違和感を覚えました。慣れるのにはそんなに時間はかかりませんでした。初学者にとってはおそらく何の違和感もないであらう。

旧 Ich weiß, daß er nach Wien geflogen ist.

新 Ich weiß, dass er nach Wien geflogen ist.

私は、彼がウィーンに飛行機で行ったことを知っています。

旧 Das Wetter ist heute so schön, daß das Kind draußen spielt.

新 Das Wetter ist heute so schön, dass das Kind draußen spielt.

天気が今日はとてもよいので、その子供は外で遊んでいます。

dass das と似たようなつづりが連続すると、いささか奇妙な感じがするのは否めません。しかし、それは我々が daß というつづりに慣れ親しんでいるからにはほかならないでしょう。その慣れを知らない初学者にとっては、はるかに理解しやすくなったと思われれます。けれども、まだ難しいと感じられる場合も残ってしまったと思われるところもあります。例えば動詞の lassen です。現在人称変化は次のようになります。

lassen

旧 ich lasse	新 ich lasse
du läßt	du lässt
er läßt	er lässt
wir lassen	wir lassen
ihr laßt	ihr lasst
sie lassen	sie lassen

先に例として挙げた essen や küssen と同じく幹母音が変わる不規則動詞で、幹母音の後の ß が新しい正書法ではすべて ss に変わります。それだけならばよいのですが問題は過去人称変化です。以下は 3 基本形と過去人称変化です。変化は従来とまったく同じです。

3 基本形 lassen ließ gelassen

過去人称変化 ich ließ

du ließt

er ließ

wir ließen

ihr ließt

sie ließen

つまり、現在時称では ß は使われなくなったのに、過去時称になると従来と同様に ß を用いなければ

ならないのです。これは語幹の a が過去基本形で ie に変わってしまうために生じることですが、この辺が初学者にとって分かりにくいのではないかと思われるところです。このようなものには他に essen, fressen, messen, vergessen 等があります。3 基本形を挙げましょう。

3 基本形	essen	aß	gegessen
	fressen	fraß	gefressen
	messen	maß	gemessen
	vergessen	vergaß	vergessen

また逆に現在時称では ß を用いるのに、過去時称になると ss を用いなければならないという動詞もあります。例えば、fließen, genießen, reißen, schließen 等です。3 基本形を挙げましょう。

3 基本形							
旧	fließen	floß	geflossen	新	fließen	floss	geflossen
	genießen	genoß	genossen		genießen	genoss	genossen
	reißen	riß	gerissen		reißen	riss	gerissen
	schließen	schloß	geschlossen		schließen	schloss	geschlossen

以上見て来たように ss と ß の区別の重要なところは「単母音の後には ss」という点にあります。それさえ確実に覚えておけば、前述した間違いやすいところはそれほど苦にならないであろうと思われます。いささか分かりにくいところが残ってしまったとはいえ、ss と ß に関しては、従来よりはるかに理解しやすくなっていると思われます。

② -a), b) 分離動詞の問題

a) 名詞を前つづりに持つ分離動詞は離して書きます。

つまり、従来は分離動詞であったものが分離動詞ではなくなるのです。radfahren (自転車にのる) を例に取りましょう。

旧 radfahren 新 Rad fahren

radfahren は従来 of 正書法に従えば「自転車に乗る」という意味の自動詞ですが、新しい正書法では fahren は他動詞であり Rad は 4 格の目的語にということになります。現在時称では、従来 of 正書法でも新しい正書法でも同じ書き方になります。

Ich fahre Rad. 私は自転車に乗ります。(旧も新も同じ)

現在時称や過去時称のように分離する場合は、従来も前つづりは大文字で書かれていたわけですから、ほとんど名詞の扱いを受けていたといつてよいでしょう。しかし、完了時称になると普通の分離動詞の扱いを受けていました。それが分離動詞ではなくなるのですから、次のようになります。

旧 Ich bin radgefahren. 新 Ich bin Rad gefahren.

従来 of 正書法は混乱を招きやすかったといえるのではないのでしょうか。radfahren は、Auto fahren (車を運転する) や Ski laufen (スキーをする) と同じ扱いになったといえるでしょう。

maschineschreiben (タイプを打つ) も radfahren と同じく分離するときは大文字で書かれていました。したがって、現在時称では従来 of 正書法でも新しい正書法でも同じ書き方になりますが、完了時称になると変わるのも radfahren と同じです。

現在時称 Er schreibt Maschine. 彼はタイプを打っています。(旧も新も同じ)

完了時称 旧 Er hat maschinegeschrieben.

新 Er hat Maschine geschrieben.

分離するときに前つづりが大文字で書かれた radfahren や maschineschreiben は、いわば特殊な分離動詞だったといえるでしょう。それが前つづりが名詞として独立したのですから、普通の動詞に戻った

とってよいのではないのでしょうか。

また前つづりが大文字で書かれることのなかった分離動詞の *achtgeben* (*auf*⁴に注意を払う), *acht-haben* (*auf*⁴に注意を払う), *eislaufen* (アイススケートをする), *haltmachen* (立ち止まる), *kopfstehen* (狼狽している), *maßhalten* (節度を守る) 等も, 同じように分離動詞ではなくなり, それぞれ *Acht geben*, *Acht haben*, *Eis laufen*, *Halt machen*, *Kopf stehen*, *Maß halten* と書かれるようになります。

旧 *Er gibt auf seine Gesundheit acht.*

新 *Er gibt auf seine Gesundheit Acht.*

彼は自分の健康に気をつけています。

b) 動詞や分詞を前つづりに持つ分離動詞は離して書きます。

これらも分離動詞ではなくなります。初級文法の教科書には必ずといってよいほど出てくる *kennenlernen* (知り合いになる), *spazierengehen* (散歩する) を例に取りましょう。

旧 *kennenlernen* 新 *kennen lernen*

spazierengehen *spazieren gehen*

つまり *angeln gehen* (釣りに行く), *schwimmen gehen* (泳ぎに行く) といった表現と同じ扱いになるわけです。現在時称と過去時称では従来の正書法でも新しい正書法でも同じ書き方になりますが, 完了時称や副文では離して書かれるようになります。

現在時称 *Er lernt eine Studentin kennen.* (旧も新も同じ)

彼はひとりの女子学生と知り合いになります。

完了時称 旧 *Er hat eine Studentin kennengelernt.*

新 *Er hat eine Studentin kennen gelernt.*

副文 旧 *Ich weiß, daß er jeden Morgen spazierengeht.*

新 *Ich weiß, dass er jeden Morgen spazieren geht.*

私は彼が毎朝散歩することを知っています。

もちろん *zu* 不定詞の場合も当然のことながら離して書かれるようになります。

旧 *Ich empfehle ihm, jeden Morgen spazierenzugehen.*

新 *Ich empfehle ihm, jeden Morgen spazieren zu gehen.*

私は彼に毎朝散歩することをすすめます。

離して書くことによって分かりにくくなってしまった動詞もあります。従来の分離動詞 *sitzenbleiben* (留年する) も離して *sitzen bleiben* と書くようになるわけですが, もともとある *sitzen bleiben* (座ったままでいる) との区別は, 表記上はまったくつかなくなり文意の上から判断しなくてはならなくなります。

③ -a) heute 等の後の時刻を表す語の大文字化

従来は副詞として使われていた *morgen*, *abend*, *nacht* を名詞として大文字化することになります。

旧 *gestern nacht* 新 *gestern Nacht*

heute morgen *heute Morgen*

morgen abend *morgen Abend*

vorgestern, *übermorgen* の後の続く場合も, また *vormittag*, *mittag*, *nachmittag* も同様に大文字化されます。

旧 *vorgestern vormittag* 新 *vorgestern Vormittag*

übermorgen mittag

übermorgen Mittag

④コンマ使用の簡略化

a) und, oder で結ばれた文の場合は一般にコンマは入らなくなります。

旧 Johanna spielte auf dem Klavier, und Johannes sang dazu.

新 Johanna spielte auf dem Klavier und Johannes sang dazu.

ヨハンナはピアノを弾き、ヨハンネスがそれに合わせて歌いました。

しかし、書き手が文意を明確に表現したいと意図している場合には、従来通りコンマを入れることができます。つまりコンマを入れるか入れないかは、書き手の主観に任されるようになったといえるでしょう。けれども und の前のコンマとはいえ、副文の入った文章ではコンマをはぶいてはいけないのは従来通りです。

Er behauptete, dass sich die Sonne um die Erde drehe, und ließ sich durch nichts von dieser Meinung abbringen.

彼は太陽が地球の回りを巡っていると主張し、何によってもその自説を曲げませんでした。

Klara, die große Musikliebhaberin ist, und ihr Cello trennen sich nie.

大の音楽愛好家であるクラークと彼女のチェロは決して切り離せません。

b) zu 不定詞句や分詞構文の前後のコンマは意味が容易に分かれる場合は、はぶいてもよくなります。

Wir empfehlen ihm(,) nichts zu sagen.

私たちは彼に何も言わないようにすすめます。

Etwas Schöneres(,) als bei dir zu sein(,) gibt es nicht.

君のところにいることよりも素敵なことはありません。

Aus vollem Halse lachend(,) kam er auf mich zu.

大声で笑いながら彼は私の方へ近づいて来ました。

これらの場合も a)と同じく、コンマの有無は基本的には書き手の主観に任されるようになったといえるでしょう。しかしながら、zu 不定詞や分詞構文の前後にそれを指示する語がある場合にはコンマを入れなくてはなりません。

Es ist von großem Vorteil, mit der Bahn zu fahren.

鉄道で行くことは大変に有利である。

Von einem trockenen Riesling belebt, so steigt er gerne in Diskussionen ein.

辛口のリースリングワインに元気づけられ、それで彼はディスカッションに参加します。

4

前章で述べた諸点が、初学者にとってぜひとも知っておかなければならないことであると思われます。従来の正書法に較べると少々ではありますが、簡単になり理解しやすくなっていると思われます。全体的に見れば、今回の改正はそれほど大きなものではないのかも知れませんが——例えば名詞の大文字を廃止することは見送られました——初めてドイツ語を学ぶ学生にとっては、おそらく幾分かは分かりやすくなったのではないかと思います。しかし、Goethe, Mann, Hesse, Kafka といった作家たちの作品は相変わらず旧来の文章のまま読まれ続けられるのですから、新しい正書法だけを学んでいけばよいというわけにもいきません。すなわち、従来の正書法と新しい正書法の違いを学生にはっきりと伝える責任が、ドイツ語を教えている我々教師にはあると思われてなりません。

なるほど、正書法はつづりの問題にしか過ぎません。音で耳にする場合には従来とまったく同じなのです。実用的ドイツ語——つまりは日常会話のドイツ語——をめざした授業が多くなって来ている今、つづりの問題だけを取り扱った新しい正書法は、現在の日本のドイツ語教育には、ひょっとしたらあまりインパクトを与えるものではないのかも知れません。しかし、書かれている文章を読めないというのでは困ります。読み、書き、話すのが言語学習の基本であることは昔も今も何ら変わることはないはずです。

各出版社から送られて来ました来年度用（1997年度用）の献本を見たところでは、初級用の教科書で新しい正書法に触れているものはなかったと思います。実施されるのが1998年8月1日からなので、まだ早いということなのであろうと思います。しかし、1998年度になれば新しい正書法に触れた教科書が幾つかは必ず出てくるに違いありません。教科書と同様に辞書においても、新しい正書法にしたがった表記も載っている改訂が早急に望まれていると思います。教科書に較べると辞書の改訂は莫大な労力と時間を費やさなければならないはずですが、できるだけ早くそのような辞書が出て来なければならないでしょうし、それを我々ドイツ語の教師もドイツ語を学ぶ学生も待ち望んでいるのです。

文 献

Duden: Die deutsche Rechtschreibung. Duden B.1, 21. Aufl. 1996.

Wie schreibt man jetzt? ein Übungsbuch zur neuen deutschen Rechtschreibung von Ulrich Püschel.
Dudenverlag 1996.

濱川祥枝：正書法と今回の改定について 三省堂